

気象業務法施行規則第50条の報告書

年 月 日現在 (会社名)

船名		※ 用 途	1. タンカー 2. 液化ガスばら積み船 3. その他ばら積み船 4. コンテナ船 5. ロールオンロールオフ船 6. その他貨物船 7. トロール漁船 8. その他漁船 9. フェリー 10. その他旅客船 11. 調査船 12. その他(用途を記載する。)
	(ローマ字)		
呼出符号			
総トン数	トン		
船舶の長さ	メートル		
船舶の幅	メートル		
乾げん	メートル		
航路			
※ 航行区域	1. 遠洋区域 2. 近海区域		
※ 国際航海	1. 従事する。 2. 従事しない。		
※ 気圧計	1. アネロイド型指示気圧計 2. アネロイド型自記気圧計 イ、7日用のもの ロ、1日用のもの 3. 電気式気圧計	※ その他の気象測器	1. 最高温度計 2. 最低温度計 3. 電気式自記温度計(海面水温測定用) 4. 手持式風杯型風速計 5. 風杯型風速計 6. 風車型風速計 7. 風向計 8. その他(測器名を記載する。)
※ 温度計	1. 水銀温度計 2. 電気式温度計 3. アルコール温度計		
※ 気温を測定する場合の温度計の使用状況	1. 百葉箱(通風装置あり)による。 2. 百葉箱(通風装置なし)による。 3. 振り回すことによる。 4. 回転装置による。 5. 携帯用通風型乾湿計の通風筒による。		
		風速計の高さ	満載喫水線からの高さ メートル

※ 湿度計	1. 毛髪製湿度計 2. 乾湿式湿度計 3. 露点式湿度計 4. 電気式湿度計	温度計(海面水温) の深さ	満載喫水線からの深さ メートル
※ 露点温度を算出する 場合の湿度計の 使用状況	1. 百葉箱(通風装置あり) による。 2. 百葉箱(通風装置なし) による。 3. 振り回すことによる。 4. 回転装置による。 5. 携帯用通風型乾湿計の 通風筒による。	※ 通信設備	1. 無線電話 2. 狭帯域直接印刷電信 3. インマルサットC型通信設 備 4. その他インマルサット通信 設備 5. アルゴス通信設備 6. 環境衛星通信設備 7. その他(通信設備名を記載 する。)
※ 海面水温の測定方 法	1. 採水用バケツによる。 2. 機関の冷却水による。 3. ベイトタンクによる。		
※ 国際観測通報船舶 としての登録	1. 希望する。 イ、甲種 ロ、乙種 ハ、丙種 2. 希望しない。		

注(1) ※印の欄は、該当する事項の番号を○で囲む。

(2) 温度計(海面水温)の深さの欄には、海面水温の測定方法が2. 又は3. の場合に記入する。

(3) 国際観測通報船舶としての登録の欄において、甲種、乙種及び丙種は、それぞれ世界気象機関の技術規則に定める甲種、乙種及び丙種国際観測通報船舶の区分によるものとする。